

校長様より

令和8年2月24日(火)

岸和田市立岸城中学校 松下 孝徳

とうとう1月は行ってしまいました。今年の2月は当初猛烈に寒くて、雪が吹きます。日もありました。日本海側や東北では記録的な積雪で、交通機関も大混乱しました。そして私学入試も終わるころには徐々に気温が上がってきました。少しづつですが春の訪れのサインが出てきています。また2月は3連休や祭日があり、しかも8日で終わるので、あとという間に逃げてしまおうな勢いです。特に今年は私学入試特別公立選抜も終わりのようです。一般公立選抜卒業式ですね。一日が大切な時間になってきています。今日が一番自分にとって若い日。大切に過ごしたいですね。

今年はいよいよアメリカノコルティナで冬季オリンピックが行われます。連日、日本のメダルラッシュで日本中の沸き立っています。毎朝おきてインターネットでの通知を見るのが楽しみになりました。今回の大会を通じて感じたのが、日本選手の飛躍です。これはやはり育成の問題がありますね。夏でも練習する場所があまりいづれもトレーニングできる環境が送予を強くし、要因の一つだと思います。それと日本人は必ずイラビューと愛する時は周りの人達への感謝を述べます。自分一人ではなし得ない

この偉業(オリンピックに出ること自体)を家族・コーチ・チームとして応援してくれに人々に支えられて達成できたものという考え方は日本の文化の一つだと考えます。とても誇らしく思います。

その中で一番印象深かった競技がフィギュアスケートペアの「リキリウ」の愛称で知られる、三浦瑠果・木原龍一ペアの金メダルでした。しかも歴代最高得点という後にも先にも経験したことのない点数で優勝しました。先日のショートプログラムの失敗による演技で5位となり、すうとうなだれて泣いている木原選手が印象的でした。たった一日で立て直し、見事金メダルへと導いたのは並大抵ではないメンタルの切り替えと、お互いの信頼があったはず。互いを信じ、今まで準備してきた自信を取り戻したのです。私は終始理屈のない派でした。スポーツを通じての愛国、限界ギリギリを勝負しつづけるアスリートに最高のリスペクトを送るとともに、可能性を信じ努力を積み重ねたとえ満足な結果が出なかったとしても最後まで自分の演技をまっとうとすべしと見習っていきなさいとおもいます。

卒業式まで後13日残り、式まで後19日(実質)一日日があっても貴重で周りの仲間や先生たちと過ごす大切な時間。最後はすべての生徒が笑って次のステージに歩んでいけるように全カでサポートしていきます。

すべての職員がすべての生徒を幸せにする学校を目指して